

令和2年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号
(7月後半の発生予想)

令和2年 7月17日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稻】

葉いもち	量：やや多い 程度：少発生	① 調査ほ場では7月上旬に稀発生が確認され、発生量は平年並。現地では多発事例が確認されている。(±~+) ② BLASTAMによる感染好適条件が、6月第6半旬以降継続的に出現しており、今後、発病の増加が見込まれる。(+) ③ コシヒカリBLの発病抑制効果は高く維持されている。(－) ④ 向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い、日照時間は少ないと予想されている。(±~+)
穂いもち	量：やや多い 程度：少発生 時期：やや早い	① 7月上旬の葉いもち発生量は平年並。(±) ② イネの出穂期は平年より2日程度早まる見込み。 ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い、日照時間は少ないと予想されている。(±~+)
紋枯病	量：やや多い 程度：少発生	① 7月上旬の発生量は平年並。(±) ② イネの生育量は指標値と比べ、草丈は並だが茎数はやや少ない~多いと地域差が大きい。(±~+) ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多いと予想されている。(±~+)
稲こうじ病	量：並	① 前年の発生量は平年並で、伝染源量は平年並と推定される。(±) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い、日照時間は少ないと予想されている。(±~+)
ニカメイチュウ	量：やや少ない 程度：少発生 (被害株率1~29%) 時期：並 (第1世代発蛾最盛期8月第1半旬頃)	① 7月上旬の被害株率は中越地域では平年比やや多いが、県全体では平年比やや少ない。(－) ② 第1世代幼虫の発生時期は平年並。 ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
セジロウンカ	量：並 時期：早い	① 初確認は6月18日で平年比10日早い。(+) ② 7月上旬の発生量は平年並。(±) ③ 梅雨明けまで飛来の可能性がある。(±) ④ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)
ツマグロヨコバイ	量：並~やや多い 程度：少発生	① 7月上旬の発生量は平年並~やや多い。(±~+) ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。(±)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稻】（つづき）

斑点米カメムシ類	量：やや多い 時期：並	① 7月上旬の畦畔等雑草地でのすくいとり虫数はアカスジカスミカメが平年比やや多く、アカヒゲホソミドリカスミカメは平年比やや少ない。（+～-） ② 水稻の出穂期は早生・コシヒカリとも平年より2日程度早まる見込み。（+） ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
【防除上の留意事項】 ① 斑点米カメムシ類は出穂したイネ科雑草に寄生し、増殖するので、これらの雑草が出穂する前に畦畔の草刈りを行い、水田侵入前の発生量を抑制する。 ② 水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、カメムシ類の水田侵入・増殖を助長するので早めに除去する。 ③ 品種ごとに出穂期を確認し、防除適期に合わせ確実に薬剤防除する。特に本年はコシヒカリにおける斑点米の主要加害種であるアカスジカスミカメの発生がやや多いため、コシヒカリをはじめとする中生、晩生品種についても適期防除を徹底する。		
イネアオムシ （フタオビコヤガ）	量：並 程度：少発生	① 7月上旬の発生量は平年並。（-） ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並みか多いと予想されている。（±～+）
コブノメイガ	量：やや多い 時期：早い	① 7月上旬に稀発生を確認。発生量は平年並（±） ② 佐渡市に設置したフェロモントラップでの初誘殺は6月17日で平年（7月4日）比17日早く、7月13日までの累積誘殺数は119頭と多い。（+） ③ 梅雨明けまで飛来の可能性がある。（±）

【大豆】

ウコンノメイガ	量：並 時期：並	① 前年の発生量は平年比やや多かった。（±～+） ② 7月上旬の調査で少発生を確認。発生量は平年比少ない（-） ③ 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）
【防除上の留意事項】 ① 幼虫の食害に伴う葉巻の発生は7月中旬頃から始まり、7月第6半旬から急増する。齢期が進んだ幼虫には防除効果が劣りやすいので防除が遅れないよう注意する。 ② 防除時期は7月第6半旬であるが、薬剤によって散布適期が異なるので、新潟県病害虫雑草防除指針に基づき散布する。		
食葉性鱗翅目幼虫 （ウコンノメイガ以外）	量：並	① 7月上旬の調査でツメクサガ等の食害が確認され、発生量は平年比やや多い。（±～+）。 ② 向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±）

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2： 「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：6月1日～8月31日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課

電話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1か月予報（7月18日から8月17日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和2年7月16日発表）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く見込みです

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。

2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	30	40	30
降 水 量	20	40	40
日照時間	50	30	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1週目（7月18日～7月24日）	30	50	20
2週目（7月25日～7月31日）	40	40	20
3～4週目（8月1日～8月14日）	20	40	40